ほんごう

学校HP

札幌市立本郷小学校
学校だより　No.7
令和８年９月３０日

帰宅時刻(4~10月)→17:00

小さな成長に Good Enough!～「ありがとう」を込めて

校長 岩澤 寧子

本日で前期が終了します。この半年間、子どもたちは新しい学年や学習に挑戦し、それぞれのペースで大きく成長しました。毎日元気に登校し、頑張る姿を見せた子どもたちに「ありがとう」の気持ちでいっぱいです。もちろん、その陰には、常に保護者・地域の皆様の大きな支えがありました。本当にありがとうございます。

「ありがとう」の反対の言葉は「当たり前」だといわれます。昔「有り難う」と書かれたように、日常の出来事や誰かの優しさは決して「当たり前」ではなく、めったにない「有り難い」ことです。先日の前期終了式では、子どもたちにも「周りの人の日常の小さな優しさや頑張りは当たり前と思わず、たくさんの『ありがとう』を伝え合い、皆で力を合わせて、後期もますます『あったか本郷』にしていきましょう」と話しました。

これは、私たち大人が、子どもたちに接する視点にも通じるものだと考えます。

心理学では、他者との比較や完璧（Very Good）を求めるのではなく、「今の自分で大丈夫」（Good Enough）という感覚を認めることが、子どもの自尊感情を高めるといわれています。自尊感情が高い人は、様々なことに前向きに取り組み、他人もありのまま受け入れられるので、「社会への適応能力が高い」とされているそうです。

「Very Good」は「人よりもできている」と周囲と比べて優越感をもつことです。この意識が高くなると、過大な自己評価につながったり、できなかったときには「自分はだめなんだ」と自己肯定感が低くなったりします。それに対し、「Good Enough」は、周囲との比較ではなく、自分の苦手なところや短所も含め、自分を価値ある存在として認めることです。

私たち大人は、つい他の子や自分自身の経験と比べたり、「できて当たり前」と捉えたりしがちです。でも、過去のお子さん自身と比べて、小さな成長でも「ここが伸びたね」と認め、「頑張ったね」「ありがとう」と声をかけることが、子どもの前向きなエネルギーになります。子どもたちを「Good Enough」「有難い」と認める、大人の関わりや声掛けの工夫が大切です。



明日からの三者懇談では、学校と保護者・お子さんと、お子さん自身の小さな成長や学びの軌跡を共有し、後期の目標を一緒に考える有意義な時間にしたいと存じます。後期も引き続き、子どもたちを見守り、安心安全な学校生活を支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

窓ふきボランティアのご協力ありがとうございました

９月１１日（金）には、１５名前後の保護者ボランティアの方々の手によって、校内の窓ふきを行っていただきました。皆さまのおかげで、普段なかなか手が届かない窓もすっかりきれいになり、校内がとても明るく、気持ちのよい空間になりました。

今後もさまざまなボランティア活動を予定しております。もしご都合がつくようでしたら、ぜひ引き続きご協力お願いいたします。

